

高根あだち流囃子

瑞穂町無形民俗文化財

所在地：瑞穂町高根



江戸時代末期から明治の初め頃、イセヤ（屋号）の角太郎という人が、神楽の興業をしていた川越（現在の埼玉県入間郡三芳町竹間沢）の「ちくま座」という一座を招き、当地の若者達が神楽を習い受けたのが始まりであると伝えられています。伝授する者の中には、桜川という力士がいたといわれています。その後、祭りに合わせ

た祭囃子に変わり、あだち流囃子になったと伝えられています。大正の頃には一本柱型の人形山車を所有していたことから盛んであったことがうかがえます。戦時中は一時中断しましたが、昭和23年頃に再興されました。その後、地元八雲神社例大祭や町イベント、元狭山地区の納涼祭などで囃子を披露しています。平成20年（2008）5月には、保存会会員が約1年半の歳月をかけ制作した山車で地元の祭りを盛り上げています。なお、高根囃子保存会では、神楽が伝わった頃に使われていたと言い伝えのあるすさのおのみこと素戔鳴尊や大蛇、稲田姫や翁などの神楽面が二十四面大切に保管されています。伝承している曲目は、「屋台囃子」「かんかんのう・ちょうちょとんぼを含む、にんば」「四丁面」「祇園囃子」等です。